

対ドミニカ共和国 事業展開計画

2017年 4月 現在

基本方針 (大目標)	持続的かつバランスのとれた開発の実現
---------------	--------------------

重点分野 1 (中目標)	持続的な経済開発
-----------------	----------

開発課題 1-1 (小目標) 持続的経済開発を実現するための体制・環境整備	【現状と課題】 ドミニカ共和国では、世界経済のグローバル化により、国内産業と外国企業との競争が激化しており、国内産業の競争力・生産性向上が必須となっている。特に、国内企業数の95%以上を占める中小・零細企業の資本力や競争力は低く、その支援は同国政府の最も重要な政策課題の一つである。 一方、経済開発の進展に伴う農村部から都市部への人口流入の影響により、環境の悪化（水質汚染、廃棄物処理など）が深刻化している。また、輸入化石燃料に多くを依存する電力・エネルギー部門では、恒常的な貿易収支赤字の改善という観点からも、再生可能エネルギーの導入・促進や省エネルギー推進が喫緊の課題となっている。	【開発課題への対応方針】 同国経済の持続的な成長のため、貿易・投資促進強化、職業訓練、中小企業の競争力強化に向けた同国の取り組みを支援する。 また、環境保全・省エネルギー促進等の分野における政策立案・監督機能強化に向けた支援とともに、特に廃棄物管理改善においては、市町村レベルでの取り組みを人材育成等を通じ支援する。 支援展開にあたっては、過去の我が国の協力成果の活用・普及、及び現状・課題に共通点を有する周辺諸国との知見の共有に留意する。		実施期間								
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	支援額 (億円)	備考
	競争力向上 プログラム	民間セクターの競争力強化に向け、関連機関・人材の能力強化を通じた支援を実施する。特に、現政権の最重要課題の一つである中小企業支援と主要産業である観光セクターに重点を置く。	中小企業向け品質・生産性向上プロジェクト	技プロ	—			—				
			競争力向上分野のボランティア派遣	JOCV/SV								
			地方開発のためのコミュニティ・ベースド・アントレプレナーシップ	国別研修								
			競争力向上分野の課題別研修	課題別研修他								
			北部地域における持続的なコミュニティを基礎とした観光開発のためのメカニズム強化プロジェクト	技プロ							5.20	
			観光分野のボランティア派遣	JOCV								
			観光分野の課題別研修	課題別研修他								
	環境保全・気候変動対策 プログラム	持続的な経済開発の阻害要因となる自然環境・生活環境の悪化、気候変動の影響への対応を支援する。	防災分野の無償資金協力	無償							3.00	防災対策に資する機材の調達
全国廃棄物管理制度・能力強化プロジェクト			技プロ							3.40		
環境保全・気候変動対策分野のボランティア派遣			JOCV/SV									
環境保全・気候変動対策・エネルギー分野の課題別研修			課題別研修他									
水資源・防災関連分野の課題別研修			課題別研修他									

重点分野2 (中目標)	格差是正										
<p>【現状と課題】</p> <p>ドミニカ共和国は観光業を中心に経済成長を続けており、中進国に位置づけられている（国民一人当たりの年間所得（GNI）は6,240ドル（2015年世銀））。しかしながら、その裨益は一部に限られ、経済レベルに比して社会開発の遅れが顕著である（人間開発指数は188国・地域中99位、国連開発計画（UNDP）2015年人間開発報告書）。</p> <p>また、所得格差（2013年のジニ係数は0.471、2013年世銀）、都市と農村の格差がみられる（貧困層の割合は都市部で36.3%、農村部では51.2%（2013年世銀））。ドミニカ共和国の「国家開発計画2010～2030」では「貧困と社会的不平等の是正」が4つの柱の一つに位置付けられており、貧困人口の割合を2008年の36.5%から2030年には15%とする目標が掲げられている。</p> <p>加えて、上記課題解決のためには十分な財源確保が必要不可欠であるが、同国の税収の対GDP比は低く、また公正な徴税が実施されていないことが問題である。</p>	<p>【開発課題への対応方針】</p> <p>貧困層への裨益に十分に配慮した社会開発分野（農村開発、生計向上、保健・教育等）への支援を展開する。特に、中央・地方行政組織・人材及び住民自身のキャパシティ・ディベロップメント（CD）に重点を置き、必要な予算確保、計画策定及び事業の実施について、他地域・全国的に展開可能な支援モデルの確立・普及を目指す。</p> <p>支援展開にあたっては、過去の我が国の協力成果の活用・普及、及び現状・課題に共通点を有する周辺諸国との知見の共有に留意する。</p>										
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)
<p>開発課題2-1 (小目標)</p> <p>格差是正による貧困層・社会的弱者への裨益拡大</p> <p>地域社会開発プログラム</p>	<p>貧困層・社会的弱者に向けた支援・サービス提供を担う各種機関・人材（中央政府、地方行政機関、地元住民組織等）の能力強化を支援することにより、これらの層への支援・サービス内容の拡充・改善を図る。</p>	北シバオ地域における地方自治体計画策定能力強化プロジェクト	技プロ							4.60	
		中米・カリブ地域生活改善広域アドバイザー	個別専門家								
		生活改善広域アドバイザー	個別専門家								
		農業農村開発分野のボランティア派遣	JOCV/SV								
		農業農村開発分野の課題別研修	課題別研修他								
		第三保健地域母と子のプライマリーヘルスケアプロジェクト	技プロ							3.00	
		保健・教育分野のボランティア派遣	JOCV/SV								
		保健分野の課題別研修	課題別研修他								
		教育分野等の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.68	

	その他										支援額 (億円)	備考
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							
					2016 年度 以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度		
その他	その他個別の案件	過去の我が国二国間協力成果を活用したハイチ等への三角協力展開、情操教育・体育、文化・芸術（日本語含む）・日系社会連携等のボランティア派遣を実施する。	ハイチ国向け画像診断技術向上計画	第三国研修		-----	-----	-----				
			ハイチ国向け職業訓練校強化計画	第三国研修		-----	-----	-----				
			日系社会連携等のボランティア派遣	JOCV/SV								

【凡例】 「協準」（＝全ての協カ準備調査）、「詳細設計」（＝詳細設計）、「技プロ」（＝技術協カプロジェクト）、「開発計画」（＝開発計画調査型技術協カ）、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」（＝課題別研修及び青年研修）、「JOCV」（＝青年海外協カ隊）、「SV」（＝シニア海外ボランティア）、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」（＝科学技術協カ（技プロ型及び個別専門家型））、「草の根技協」（＝草の根技術協カ）、「〇〇省技協」（＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協カ）、「民間提案型技協」（＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業）、「無償」（＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協カ）、「水産無償」（＝水産無償資金協カ）、「食糧援助」（＝食糧援助）、「一般文化」（＝一般文化無償資金協カ）、「草の根文化」（＝草の根文化無償資金協カ）、「緊急無償」（＝緊急無償資金協カ）、「日本NGO」（＝日本NGO連携無償資金協カ）、「草の根無償」（＝草の根・人間の安全保障無償資金協カ）、「有償」（＝円借款、海外投融資）、「マルチ」（＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム）、「中小企業支援」（＝中小企業海外展開支援事業「基礎調査」、「案件化調査」及び「普及・実証事業」、並びに中小企業連携促進基礎調査）、「実線「———」（＝実施期間）、破線「- - - -」（＝実施予定期間）

※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。